

# 碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可  
神奈川 碩 会 発行

8年3月 逗葉大合 子山船 地区計	現在 地区計	会員数 158名 215名 45名 418名	(284号) 行者 萃者 愛	8年3月 根編 中	3月 岸 村	行集 岳
----------------------------	-----------	------------------------------------	-------------------------	-----------------	--------------	---------

## 行事予定

○碩心会皆伝会吟の集いと懇親会

日時・4月27日(土)9時30分より

会場・葉山福祉文化会館二階集會室

会費・二千五百円

申込・3月15日厳守

吟題・絶句、律詩、和歌、俳句  
新体詩、歌人等自由選定

## 高段者審査の一部改正について

県本部で統一実施しております皆伝以上の審査について、今までは履修期間の基準日が3月31日とされていましたが、平成8年4月1日より、4月30日に変更されました。これにともない当会は八段受審後三年稽古に励んだ方は皆伝受審資格者となります。尚平成9年2月審査の皆伝受審資格者は次の通りとなります。

平成4年10月1日付以前の八段認許者

平成5年4月1日付の八段認許者

平成5年10月1日付

平成6年4月1日付

碩心会創立60周年

## 記念吟道大会実施計画(案)について

8年2月21日(水)右件につき常任理事会がひらかれました。

◎大会日程と大会会場の選定について

日程・第一希望 平成9年5月  
第二希望 // 6月

吟 第一候補 葉山町福祉文化会館  
第二候補

◎大会準備委員会の設置

(委員の構成)  
常任理事以上15名、相談役1名、参事6名、各部副部長、上記以外の指導者、支部長(除上記者)

(委員の業務分掌)

総括、会場、プロ企画編集、招待、

記念品弁当、懇親会、会計

◎委員の人数

決定次第報告

◎大会積立金

平成8年2月末  
平成8年2月  
六三〇、〇〇〇円

◎準備作業スケジュール

## 太宰府天満宮の紅梅



佐久間 爽 岳

東風吹かば匂いおこせよ梅の花

あるじなしとて春な忘れそ

太宰府神社には、この歌を詠んだ菅原道真を慕って、都から飛んできたという白梅があると聞いておりました。

二十年ほど前の二月、夫の佐久間溪岳と二人で九州に旅行をした折、天神様に参詣をしてからその梅を訪ねました。清浄とした境内の白梅には「飛梅」と、大きく標示してありました。神社には更に一對をなす紅梅も見事に咲いており、その傍に「今上陛下が行幸啓なされた折、飛梅をご覧になられた皇后陛下が『白梅だけでは淋しかろう』との思召により、葉山の御用邸から紅梅を賜りました」と由緒書がありました。今上陛下は昭和天皇で、皇后様は現在の皇太后様でいられます。そのことを知って以来、天満宮は身近く思われるのでした。

学問の名家に生まれた道真は、エリートコ

ースを順調に進み、右大臣の位についていた時、突然に左大臣であった藤原時平らの政治的クーデターに会い、太宰権帥に降格、九州に左遷されてしまいました。

都で九月九日の重陽の節会には「秋思の詩」を作り、その恩賜の御衣は此処にありと詠んだ「九月十日」「門を出でず」の詩には、都府楼は瓦の色を見るだけ、観音寺の鐘声はただ聞くのみとして、真面目な道真は戸外に出ることもなく、配所の月を見ながら、その二年後にはこの世を去りました。

今、馥郁と香る白梅、紅梅は、菅公をさぞかしお慰めしていることでしょう。折しも受験の季節で、各地の天神様は、願いごとを聞き届けるために忙がしいことと思います。最近の絵馬には横文字で書いてあるものもふえてきました。道真は今から一〇九三年前、59才で没しました。

## 似て非なる漢詩

松 和 田 中 宗 岳

さきに傾心281号に戯作の漢似を掲載して頂

きましたので、之に甘えて、松口月城先生の「青葉の笛、吹く者は誰ぞ」より連想して、左記の四篇を作ってみました。

(選挙公約)

議会解散選挙始 議会解散して選挙始まる  
街頭候補枯声叫 街頭の候補声を枯して叫ぶ  
攻撃政府弄甘言 政府を攻撃し甘言を弄す  
公約法螺吹者誰 公約の法螺を吹く者は誰ぞ

(進軍喇叭)

機銃掃射砲弾雨 機銃掃射砲弾の雨  
突撃敢行白兵戦 突撃敢行白兵戦  
天皇陛下万歳声 天皇陛下万歳の声  
進軍喇叭吹者誰 進軍喇叭吹く者は誰ぞ

(拭高厦窓) 高厦の窓を拭く

高厦俯観人如蟻 高厦俯観すれば人蟻の如し  
脚下千丈身自竦 脚下千丈身自から竦む  
朔風刺膚揺吊函 朔風刺膚を刺し吊函を揺がす  
欲淨硝子拭者誰 硝子を淨んと欲し拭く者は誰ぞ

(襦袢交換)

嬰兒泣喚操不止 嬰兒泣き喚び操せど止まず  
母親不在無授乳 母親不在乳を授くる無し  
異臭仄漂襦袢濡 異臭仄に漂い襦袢濡たり  
男手不慣拭者誰 男手は慣れず拭く者は誰ぞ

## 無題 (4巻43頁) 村上佛山

落花紛紛雪紛紛

雪を踏み花を蹴つて伏兵起る

白昼斬り取る大臣の頭

噫嘻時事知る可きのみ

落花紛紛雪紛紛

或は恐る天下の多事此に兆さんことを

水戸藩主徳川齊昭が幕府の命により蟄居され、又將軍継嗣問題でも水戸藩の意がいられず紀州から慶福よしゆを迎えた事等が、大老井伊直弼の為すところと判明し、水戸藩の志士達は激昂。加えて直弼が、勅許を待たずして条約に調印した事等に対し、尊皇攘夷派の志士達は、幕府の改革を図ろうとした。これに対し直弼は、積極的にこれらの志士の弾圧にり出し、次々に有為の人材を逮捕、処刑した。いわゆる「安政の大獄」である。そして水戸藩にも弾圧の手が及び、志士達による直弼暗殺の計画が周到に行なわれた。

万延元年(一八六〇)三月三日、折からの暁雪をついて、水戸藩を中心とし薩摩を加えた18人の志士は、直弼の登城を桜田門外で待ち受け襲撃、井伊直弼は殺されたのであった。

## 高段者審査 雪を踏み越え受審

2月11日(日)は皆伝審査、2月18日(日)は九段以上の審査。折しも一番寒い時季に行なわれるのですが、会場、行事予定の関係等で今年も二月に実施されました。

偶々2月18日は前夜からの雪で、受審される皆さんは雪を踏み越え挑戦。でも心配していた、けが人等も出ず、正直のところホッとしました。御苦勞様でした。

又高齢の方の中には、家族の方達の思いやりもあつて欠席された方もありますが、今年をはじめ追試を設け、2月25日(日)県本部事務所に於て行なわれました。

皆さん合格おめでとうございました。

## 好天に恵まれた碩心会審査会

春まだ浅き3月3日(日)碩心会春期審査会が逗子図書館ホールに於て行なわれました。当日は桃の節句にふさわしく、好天に恵まれ、又陽気も温かく、審査の方にとっては神の恵みと思えました。

次に審査講評の中から抜粋して書いてみましたので次回の御参考までに。

## 審査講評より

(午前の部)

- 時間が短い。
- 姿勢を正しく、目をあける。
- 口を思いきりひらき、声を充分に出す。
- 五言詩のおとしをもう少し勉強。
- 全体的に和歌があまりよくなかった。
- 口のひらきが足りないから声が出ない。迫力がない。腹式呼吸を充分に。
- 和歌を自分なりの符付でやっている人が多い。教本通り符付に忠実に。
- 和歌：全体的に余韻が短かい。1分20秒以上。

(午後の部・講座室より)

- 迫力が足りない。マンネリ化。
- 吟じ方が早い。吟題をいったら一呼吸。
- 五言のおとしがお粗末。
- 和歌の序詠の区別が多すぎる。
- 吟じこみ方が少ない。
- 和歌、俳句をもう少し勉強してほしい。特に和歌が時間的に早すぎる。
- 審査が終わった時点でもう一度教場で課題曲をやってほしい。

月報「碩心」寄稿のお願い

当会発行の月報「碩心」は、昭和47年8月創刊以来、今月号で284号となり、23年8ヶ月が経過しました。その間一回の欠号もなく続いてきました。去る平成四年の碩心会創立55周年大会の折、今は亡き安孫子岳晴先生が、壇上に於て月報「碩心」のことをとりあげられ「全国に会誌発行の会は数あれど、毎月発行でここまでつづいている会はずまいでしょう」と突如として言われ、編責者の私にとっては今だにあの時のことが忘れられません。自慢話になってしまいましたが、編集に際してのそれなりの苦勞は皆様にもよく解っていただけたと思います。B54頁の紙面を如何にして埋めるかが頭の痛いところです。そのようなことをご理解いただき、皆様からの寄稿を心からお待ちしております。詩吟に対する建設的なご意見、抱負、好きな詩、思い出の詩にまつわる話、教場風景、その他詩吟に関する記事を何なりとお寄せ下さるようお願いいたします。

※総本部発行の吟友3月号の「機関誌紹介」欄に、月報「碩心」が掲載されています。

(俳句二題) 堀内・A 石渡桂岳

白梅や寮にホッホツ灯が点る

菜の花を活けて明るき集会所

(短歌二題) 堀内・D 新井衛風

寒風に庭の紅梅ひらひらと

散りゆく先に春遠からじ

一望に爛漫と咲く桜花

夢路に見ゆるきさらぎの夜

(移籍)

19 松野岳宝 吟詠支部へ

34 矢沢峰岳

180 人見海風

67 平山祥岳

123 荒木桂岳

162 栗山彩風

238 石川響風 75-二四九五を二四九九に

(住所変更)

32 荒井鳥岳 (新) 逗子市逗子三十一五-二六

341 牛尾昭山 (新) 横浜市磯子区森二二-三三-十

プリシード磯子203号

☎〇四五一七六一-三三八九

☎〇四五-七六一-三三八九

(入会)

444 角田 稔 横須賀市坂本町二-二四

(下山口) ☎〇四六八一-二五-六六四八

445 長嶋 良雄 横須賀市坂本町四-二七

(下山口) ☎〇四六八一-二五-七三一八

446 角田恵美子 横須賀市坂本町二-二四

(下山口) ☎〇四六八一-二五-六六四八

447 東山 勇子 逗子市山の根二-七-三七

(真澄) ☎〇四六八一-七一-八六九二

448 伊藤トキ子 逗子市久木八-二-一九

(真澄) ☎〇四六八一-七三-三三三三

(退会)

108 坂本美岳 (逗子B) 209 栗原丈風 (山の根)

210 横瀬秀風 (山の根) 236 松尾憲風 (逗子A)

268 秋岡正風 (山の根) 317 秋岡雪山 (山の根)

328 小高啓山 (山の根) 329 大辻幾山 (山の根)

421 久保木三郎 (逗子A) 427 松川シゲ子 (吟秀)

430 石川正太郎 (吟詠)

三月に入り、三寒四温の言葉通り、日ましに春めてきました。柳に新芽、沈丁花の香り、野を彩るすみれやれんげの花咲くのが待たれる、何となく心うきうきの、春の待たる今日この頃です。